令和８年度第１回学校運営協議会議事録

開催日時　　令和８年６月22日（月）　16時～17時15分
場　所　　本校応接室
出席者
〇松尾　尚　　産業能率大学経営学部学部長・教授
〇加藤　孝夫　　元県立高等学校長
〇田之畑　有美　　港北区地域子育て支援拠点どろっぷ施設長
〇松山　麻衣子　　横浜市立太尾小学校校長
〇白木　慎一郎　　神奈川県立港北高等学校ＰＴＡ会長
〇坂本　聡志　　神奈川県立港北高等学校校長

２　配付資料
(1)令和８年度港北高等学校学校運営協議会委員名簿
(2)神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則
(3)学校評価報告書（令和７年度実施報告・令和８年度目標設定）

３　校長挨拶（坂本　校長）
お忙しいころありがとうございます。
58期生358名が入学、1024名で新年度をスタートしました。
昨年度の学校評価を踏まえて今年度の目標を設定しました。貴重なご意見をいただき、それらを反映してまいります。
６月の体育祭ですが、台風の影響を鑑み、１日前倒しで実施、次の日は台風の影響もあり、生徒は臨時休業としました。11時の様子をもって最終判断をしました。気象庁の警戒レベルの変更があり、休校の基準を変更、生徒の安全安心を一番に判断しました。
本校は、鶴見川の氾濫による危険性があるが、国土交通省河川事務所に電話をして聞いたところ、昭和33年の大型台風（狩野川台風）クラスでも大丈夫ということだったが、引き続き安全管理をしっかりしながら対応してまいります。

４　議事
(1)神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則について（副校長）
令和８年１月に改正があり、教員の働き方改革を進めていく中で、学校運営協議会における基本的な方針の中に業務量管理・健康確保措置の実施に関すること（第３条）が追加された。
「業務の３分類」で学校での仕事の仕訳をする中で、負担軽減の促進に、コミュニティ・スクールの活用も一つの方策としてあがっている。学校外部の組織の協力もお願いしたい。

（2）学校評価報告書について　各グループより今年度取組について説明。
〇学習支援グループ
昨年度頂いた意見を踏まえ、ＤＸ化促進における取組の具体的な指標を入れた。
〇生徒支援グループ

生活指導、学校保健教育相談などを所掌。学校生活を有意義に行えているか注視し、支援していく。具体の方策においては、生徒対応等について、マニュアル化できるものを進めていく。SNS など、表に出にくい事案もあるが、未然防止に務めていく。

〇活動支援グループ

服装規定を一部改正した。気付かれたかもしれないが、紺色のポロシャツを着ている生徒がいる。セーターの色も増えました。生徒が先生たちに働きかけてきたもので、ほかにも文化祭で花火をあげたり、文化祭の収益金でウォータースタンドを入れたりした。生徒の自己肯定感を上げるような取組の議論も活発になってきている。

更に、部活動補助費の各部への配分方法を見直し、週当たりの活動日数や実績を上げている部活に手厚くした。

今年も（文化祭で）花火をあげる予定である。昨年度お知らせしていたが、地域からのクレームもあったので何か良い手立てがあれば教えてほしい。

ＰＴＡからアイススラリーの提供があった。生徒には概ね好評だった。

〇開発・広報グループ

授業改善と学校広報を担当している。授業改善は、昨年度は「生徒の問から始まる授業」をテーマに研修会や研究授業を実施したが、テーマの難しさにも気づき、今年度は同じテーマで、更に内容を細分化して、フィードバックを行うことにした。

調べ学習で終わってしまいやすいが、成果発表会が終わっても継続的な探究活動を行えるようにするところを目標としている。

以前ホームページの閲覧回数を数えたらどうかというアドバイスを頂いたが、ホームページの閲覧回数の確認方法などは課題である。

〇進路支援グループ

３年間を見通した予定からお話しすると、３年間統一して河合模試を実施。模試の結果等の資料を大学への合格に繋げられるよう活用方法を検証している。早くから大学進学のことを考えられるよう、外部からの話を聞き、意識を持てるようにさせたい。

進路支援としての業務は、一つ一つの業務におけるミスをなくすこと。失敗は許されないことなので、ヒヤリハットを文字化し、マニュアルも出来上がってきている。引き続き未然防止に務めていく。

〇管理運営グループ、学校運営

環境整備は、日々の清掃活動始め、日頃からの用具管理等を行っている。清掃は業者に委託というところも増えているようだが、高校では生徒が行っている。

ICT 環境整備においては、電子黒板の整備などは進んだが、授業や校務のＤＸ化を求められる一方、それに見合った予算が付かないなど、厳しい状況である。

働き方改革においては、本校では産業医からも労務管理等の助言をいただき、改善に努めていく。部活動の指導などで月あたりの時間外在校時間 80 時間を超

える先生もいる。
　事故防止においては、昨年度パソコンが紛失する不祥事もあった。業務の担当者だけでなく、管理職を含め全員が意識を改めて行きたい。

5　協議（主な質問等）

〇採点システムとはどんなものか。
要配慮の生徒の定義とはなにか。
スタディサプリの導入と指導内容とのリンク、公式 SNS の使用予定について教えていただきたい。探究においては生徒の視点が外に向き始めると、先生のサポートが必要になるがどのようなサポートがあるのか。以上 3 点について教えてほしい。

〇県で採点システムを導入しているとのことだが、観点別評価や筆記試験にも対応しているのか。生徒の要望などを汲み取り実行に移しているのはよいと思う。授業評価を実施しているが、どのようにとらえられているのか。

〇地域との協働で、今年度どんな点を深めていくのか。ボランティア等の有志で参加する生徒の増加など､学校の外に出る活動についてどのように考えられているのか。乳幼児たちとのふれあい体験を通して価値観の変容進路につながったり、高校生の自己肯定感の高まりにつながっている。

〇高校の現状を伺い、小学校との異なりを感じた。情報をキャッチするのは HP が中心だが、SNS 時代に、学校として検討している情報発信はありますか。保護者向けなど考えていますか。小学校はすぐーるが活用されています。
　この学校運営協議会が学校の教育活動に生かせるか、また、先生方は何を一番負担に感じられていますか。小学校は会議、授業研究、上からくる資料作成、慢性的な人材不足が教員の負担です。

〇小学校も同じく人材が足りていないが、部活動についてはどうか。

〇全体では４年間の目標と１年間の目標を分けてあるが､同じ目標を立てているのは、いかがか。方策が具体的ではないと思う。一文一文でわかり分かりやすく書いてはどうか。保護者はすぐーるを使って見ることもできるし、どんな媒体が求められているのかを考えて更新の頻度をあげるのがよいと思う。
　ICT の環境でチャレンジしてほしいのが、リモートの授業だが、どういうものがあればそれが実施できるのか。
　コロナが落ち着いたらなぜ対面だけになってしまったのか､。自宅で授業を受けられる体制は作れないのでしょうか。

以上